

総務経済委員会 行政視察報告

5月13日から15日にかけて、委員7名、事務局随員3名、執行部1名で、福岡県嘉麻市、福岡県久留米市、佐賀県嬉野市、佐賀県武雄市を視察してまいりました。

福岡県嘉麻市

足白農泊施設カホアルペについて

嘉麻市は福岡県のほぼ中央に位置し、山々に囲まれた自然豊かな地域です。市内には旅館が1軒しかなく、飲食施設も少ないため、食と宿泊機能を備えた観光拠点施設として、「足白農泊施設カホアルペ」が令和2年に開業しました。

カホアルペは、嘉穂カホアルプスの麓に立地した築25年の小学校をリノベーションした体験型宿泊施設で、17室を有し60人が宿泊可能です。現在では海外からの宿泊客も増え、観光消費量の増加、雇用の創出、地場産物の消費拡大などの効果があるとのことでした。

開業当初は市直営でしたが、令和5年4月からは、公募による指定管理者である株式会社リナシエンテによる運営に移行し、利用者から高い評価を得ているとのことでした。

なお、この株式会社リナシエンテは、加賀依緑園の指定管理者であり、山中温泉ゆけむり健康村の指定管理者優先交渉権者でもあります。



▶足白農泊施設「カホアルペ」

福岡県久留米市

指定管理者制度モニタリングについて

久留米市では、指定管理者制度を導入している公の施設において、指定管理者によるサービスの提供が適切かつ確実に実行されているかどうかを確認するため、「指定管理者制度モニタリングマニュアル」に基づいてモニタリングを実施しています。



▶福岡県久留米市

モニタリングでは、①業務の履行状況の3項目の内容について確認を行い、年度終了後に当初要求したサービスレベルの達成状況を判定し、総括コメントや今後の改善項目などを記載したモニタリングレポートを指定管理者に通知しています。

なお、達成状況は、S最良、A良、B可、C改善、D見直しの5段階で判定しており、直近3年間ではBが最も多く、CとDはないとのことでした。

※達成状況がS及びAである施設のうち、田主丸ふるさと会館、久留米ふれあい農業公園、道の駅くるめを視察しました。

佐賀県嬉野市

嬉野温泉駅周辺整備事業について

令和4年9月の西九州新幹線開業に伴い、新たな玄関口である嬉野温泉駅及び国道に隣接した、道の駅「うれしのまるく」が開業しました。開業当初は市直営でしたが、今年度から指定管理者による運営に移行しています。一般的な道の駅と異なり、地域の玄関口としてのゲートウェイ機能や、駅前に移転した嬉野医療センターと連携した防災拠点としての機能を有しています。

また、駅前には、民間の「トリップバス道の駅プロジェクト」によるホテルが開業しました。このプロジェクトは、積水ハウスとマリOTT・インターナショナルによる地方創生事業で、レストランを設けない宿泊特化型ホテルを道の駅の隣接地に開業することで、滞在型の観光需要を創出しています。このホテルや他の商業施設の土地は、定期借地方式を採用しているとのことでした。

かつては年間200万人を超えていた観光客数は、コロナ禍で一時落ち込んだものの、新幹線開業効果もあり、現在は回復しているとのことでした。



▶道の駅「うれしのまるく」

佐賀県武雄市

武雄温泉駅周辺整備事業について

西九州新幹線開業とともに武雄温泉駅駅前広場が整備され、「イベント広場」は、市民も観光客も憩う『まちのリビング』をコンセプトに、芝生広場や噴水を備え、マルシェなどのイベントにも使用でき、「交通広場」には、バス停・タクシー乗り場・一般降車場・駐車場などの機能が備わっています。

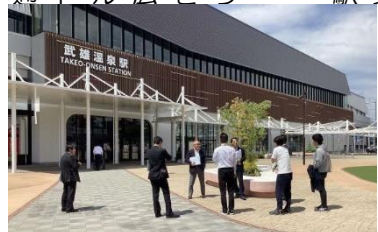
駅構内の「観光交流センター」は、在来線側と新幹線側でコンセプトを明確に分け、在来線側は観光案内・手荷物預かり・レンタサイクルなどの各種サービスを行い、お土産は武雄市内の商品に特化して販売、新幹線側は西九州エリアの商品や本を販売し、周辺市への周遊を促す役割を担っています。

これらの取組により、市内外から西九州の拠点として認知され、令和4年度の観光交流センター及び駅前広場の利用は前年比10倍に激増したとのことでした。

また、新幹線開業により福岡県からも長崎県からもアクセスが向上し、来訪者のみならず移住相談件数も増加し、転入超過が継続しているとのことでした。

視察を終えて

今回の視察事項については、今後の委員会の取組に生かしていきたいと思っております。



▶武雄温泉駅